



誠・力・光

令和4年12月2日

練馬区立北町中学校

学校だより 12月号

助け合いの大切さ

校長 中嶋 雅彦

浅草駅で東京メトロの1日乗車券を改札機に入れようとしていると、「こんにちは」という複数の挨拶が聞こえました。周りに生徒の姿を見かけなかったので、少し驚き、挨拶を返しました。12月25日（金）に、2年生の校外学習が、行われました。浅草をチェックポイントとし、東京都内にある見学場所を班ごとに選択し、事前の学習を行いこの日に到っています。晴れて暖かで、汗ばむような天気でした。浅草寺には、沢山の中学生が、本校と同じように、班行動をし、校外での学習を進めている様子が見られました。校外での教育活動が、昨年度より増えてきたことを実感するとともに、本校の生徒が、班員と協力しながらまとまって歩いている様子に、安心感を覚えました。

「マナーを守り、全員で協力し Smile で終われる校外学習に！」をスローガンにし、実行委員長を中心に、2年生全員で、準備をしてきました。実行委員長のしおりでのことばには、「学年一人一人が一致団結して最高の思い出にしましょう！！」というものがありませんでした。助け合いの中で、学ぶ人と人の関わり合いの大切さや問題解決への取り組みなどこの一言の中にその意気込みが含まれているように感じました。昼食場所を浅草のレストラン1カ所にし、学年の半分の人数に分け、食事をしました。「ごちそうさまでした」の声とともに、店を出て行く生徒を見ていると、この校外学習において、事前の学習に子どもたちがしっかりと取り組んでいたことを実感しました。

12月に入り、冬らしい気温となってきました。生徒会では、登校する生徒にユニセフ募金を呼びかけています。給食時の昼の放送で、募金活動が、多くの子どもたちの命を助け、学ぶ機会を与えているという内容の呼びかけを思い出し、校長室からその様子を眺めていました。日本では、生後2カ月から1歳になる間に、ヒブワクチン、小児肺炎球菌、ロタウイルス、B型肝炎ウイルス、四種混合ワクチン、BCGなど多くのワクチン接種を行い、生まれたときから子どもたちの命を守っています。お小遣いの中からの募金が、遠く離れた場所で暮らす子どもたちの命や生活の助けになることを願っています。

本校では、様々な教育活動を通して、近くの仲間と助け合い、遠くの人たちに思いをはせ、人権を尊重し、自分や他人を大切にする力を身につけさせています。これからも、地域や保護者の皆様とともに、子どもたちの健全な育成を図っていきたくと考えています。